

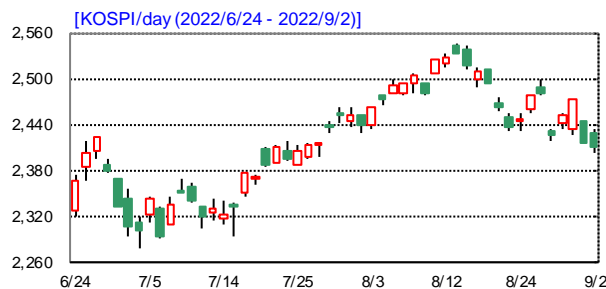


## 【韓国】 総合指数は週間で2.9%安と3週続落、今週は連休を前に上値重いか

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.9%安と3週続落。週明け8月29日は前週末の米株安の流れを引き継ぎ、前週末比2.2%の大幅安となり、1カ月ぶり安値を付けた。米FRBのパウエル議長がジャクソンホール会議での講演でインフレ抑制を最優先に利上げを続ける方針を改めて強調したことを受け、米金融引き締め長期化と世界的な景気悪化への懸念から売りが広がった。30-31日は値ごろ感から買い戻しが優勢。韓国政府による入国制限のさらなる緩和を受けて経済活動の回復を期待する買いも入った。一方、9月1-2日は続落し、連日で5週間ぶり安値を更新した。米金融政策への警戒感に加え、8月の韓国製造業PMIの悪化、CPI上昇率の高止まりが嫌気された。今週は9日から始まる秋夕の4連休を前に上値の重い展開か。

▼指数チャート

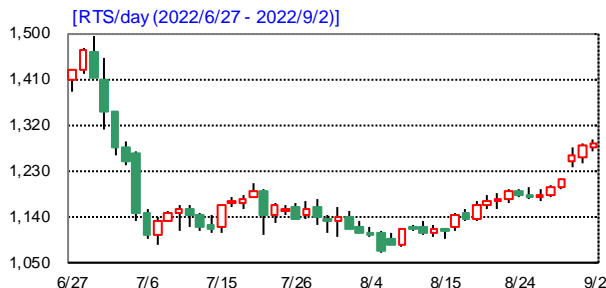


## 【ロシア】 RTS 指数は週週間で8.6%高と大幅に4週続伸、今週は引き続き堅調か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で8.6%高と大幅に4週続伸。好決算や強い業績見通しを発表したガスプロムが急騰し、相場をけん引した。天然ガス大手のガスプロムが週間で37.7%高となり、指数を押し上げた。ガスプロムの2022年中間決算は、天然ガス価格の上昇を追い風に、売上高、利益がともに前年同期比で2倍以上となった。8月の天然ガスの日次生産量が7カ月ぶりに増加したことや、2022年通期の好業績見通しの発表、大幅増配の承認に向けた臨時株主総会の開催決定も好感された。ガスプロムの好決算を受けてルクオイルが11.7%高となり、金融のズベルバンク・オブ・ロシアは10.3%上昇した。RTS 指数は週明けから5日続伸し、2日には6月30日以来の高値となる1284.53ドルで終了した。今週は引き続き堅調か。

▼指数チャート



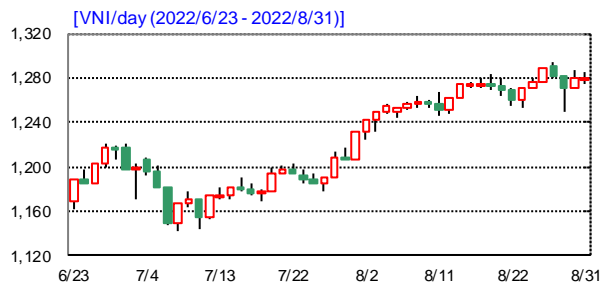
## 【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.2%安と小幅に8週ぶり反落、今週はもみ合

いか

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.2%安と8週ぶりに反落。利益確定売りが続いたが、押し目買いで下げ幅を縮小した。先週は1-2日が休場で3日間の取引だった。週明け29日は前週末比0.9%安と続落。前週に6月10日以来の戻り高値を更新した後、利益確定売りに押されたことで、週明けも海外勢が売り越しとなる中、不動産銘柄や金融株を中心に売り優勢の展開となった。ただ、30日は押し目買いが強まり、0.7%高と反発すると、31日は0.1%高と小幅に続伸した。個別ではゴム製品のベトナム・ラバーが3.7%、PC・携帯電話販売のモバイル・ワールドが2.5%、食品加工のマサン・グループが2.0%上昇した一方、不動産のビンコム・リテール、ビンググループが4.0%、鉄鋼のホア・ファット・グループが2.1%下落した。今週はもみ合いか。

▼指数チャート



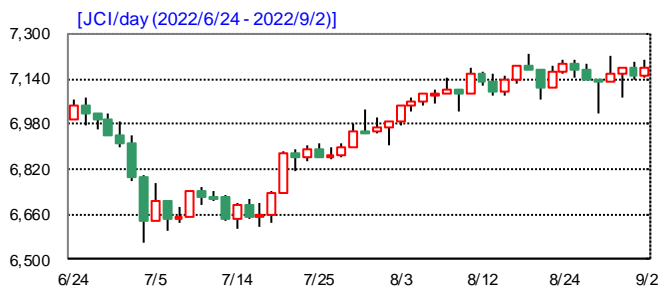


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.6%高、今週は 7 月の小売売上高に期待**

ジャカルタ総合指数は週間で 0.6%高と反発。8 月月間では 3.3%高。先週は前週後半に下落した反動でおおむね堅調な値動きとなった。週初の 29 日は、前週末に米ジャクソンホール会議に出席したパウエル FRB 議長が利上げ継続を強調した影響で、指数は小幅に 3 営業日続落。ただ、30 日に反発すると、31 日は引け際の買いが奏功し続伸した。一方、1 日は 8 月の CPI 上昇率が前年同月比 4.7%と市場予想から下振れしたほか、7 月の外国人訪問者数が 47 万 7000 人に急増したものの効果は限定的で、指数は 3 日ぶりに反落。2 日は反発して取引を終えている。今週は 9 日に 7 月の小売売上高が発表される予定。

### ▼指数チャート

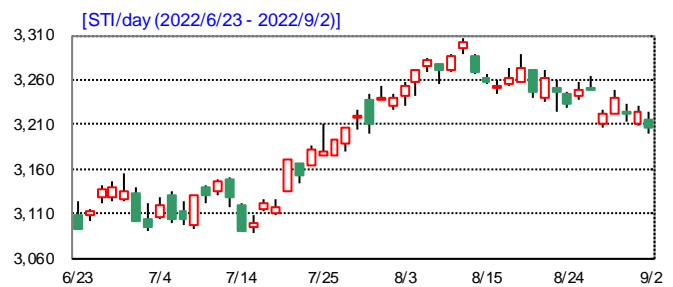


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.3%安、米国の大幅利上げ観測を嫌気**

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.3%安と反落。8 月月間では 0.3%高。先週は一進一退の値動きが続いた。週初の 29 日は前週末の NY ダウがパウエル FRB 議長の発言を受けて急落した流れを引き継ぎ、指数は 3 営業日ぶりに反落。30 日は反動で買い戻されたが、31 日は米労働省が前日に発表した 7 月の雇用動態調査で求人件数が市場予想を上回り、大幅利上げ観測が強まった影響で売り優勢となった。1 日は小幅反発した一方、2 日は 8 月の米雇用統計発表を目前に控えた様子見で反落している。今週は前週末の取引終了後に発表された 8 月の製造業 PMI と 5 日発表の 7 月の小売売上高に対する市場の反応が焦点。

### ▼指数チャート

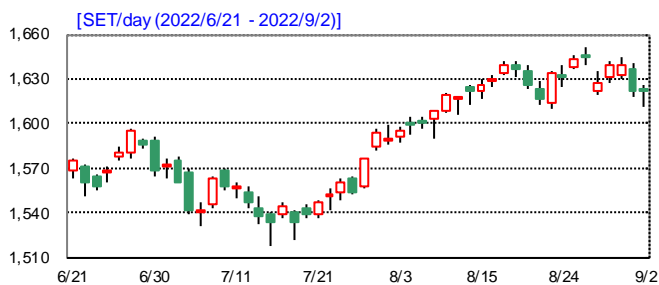


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.4%安、今週は 8 月の CPI が焦点**

SET 指数は週間で 1.4%安と 7 週ぶりに反落。8 月月間では 4.0%高。先週は買い材料に乏しく不安定な値動きが続いた。週初の 29 日は、米国の積極的な利上げの継続方針が嫌気され、前営業日比 1.1%安と 3 日ぶりに反落。30 日は大型株が買われて反発したが、31 日は 7 月の鉱工業生産が前年同月比 6.4%増と市場予想から下振れた影響で小幅反落すると、1 日は米国の金融引き締めが長期化すると懸念が広がったほか、原油価格の下落も痛手となり、指数は前日比 1.0%安と続落した。2 日は前日からほぼ横ばいで引けている。今週は 5 日の 8 月の CPI に続き、8 日には 8 月の消費者信頼感指数が発表される予定。

### ▼指数チャート

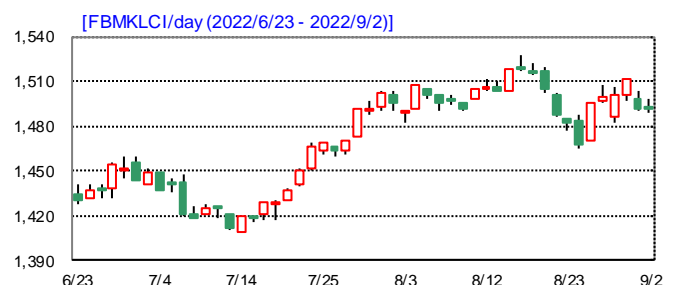


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.6%安、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催**

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 0.6%安と 3 週続落。8 月月間では 1.3%高。先週は週後半に終値で 1500 ポイントを割り込んだ。週初の 29 日は、7 月の CPI 上昇率が前年同月比 4.4%と 14 カ月ぶりの高水準に達したものの影響は軽微で、指数は小幅に 3 営業日続伸。30 日は引け際の買いが奏功したが、祝日を挟んだ 1 日は米国の金融引き締めに対する警戒感の高まりで前営業日比 1.3%安と反落した。2 日は前日からほぼ横ばいで引けている。今週は 8 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、9 日には 7 月の鉱工業生産が発表される予定。内容次第で 1500 ポイント台を回復できるかが焦点。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。